

社説

2014・11・27

青森一高養一ブランド ものづくり教育で喜びを

一生懸命に丁寧に作れば、作った商品の価値が上がる。商品を手にした人に喜んでもらえる。喜んでもらえることが、仕事をする自分の喜びにもつながる。

青森市の県立青森第一高等

養護学校は今年、同校の知的

障害の生徒が作業学習で作る

製品を学校独自のブランド化

した。ものづくり教育を通じ

て障害がある子の能力を引き

出すとともに仕事をする気持

ちを育て、仕事の喜びを味わ

っている。

「障害があるがゆえに社会

生活を送る上で困難なことも

多いけれど、いいね、と言わ

れて伸びる子もいるはず」。

学校関係者はそう語る。「デ

イネイ」、いいね。そう喜ば

れることが、生徒の成長とい

ってもう狙いがある。この

特別支援学校のものづくり教

育の新たな挑戦に期待する。

学校独自のブランドの名は

「テイネイ」。丁寧なものづ

くりという意味が込められて

いる。「テイネイ」ブランド

の商品は、なかなかいい。牛

乳パックを再利用した和紙に

柿渋を塗って作った文房具、

小型ペンチ、織物のバッグと

ランチョンマット。生徒が育

てた野菜も、ブランド商品の

一つに加えている。

ものづくり、作業学習の背

景にあるのが、特別支援学校

としてのキャリア教育だ。

同校は知的障害がある生徒

や肢体不自由の生徒が学ぶ。

知的障害の場合、コミュニケーションが難しくかったり、集

めるのがどうかも分かる。

ブランド「テイネイ」は、

同校の教育を県民に広く知っ

てもらおうきっかけでもある。

また、学校祭で商品を販売

して好評だったが、ここに至

るまでは外部のデザイナーら

と、先生との間で数多くの議

論があった。例えば、いい商

品にするからにはデザイン性

をすれば、長い時

間の作業ができるのか、指示

を受けて作業をこなせる力が

あるのかも分かる。

ブランド「テイネイ」は、

同校の教育を県民に広く知っ

てもらおうきっかけでもある。

また、学校祭で商品を販売

して好評だったが、ここに至

るまでは外部のデザイナーら

と、先生との間で数多くの議

論があった。例えば、いい商

品にするからにはデザイン性

が大切。でも、生徒の技術で

対応できるのか、考慮する必

要があったからだ。

ブランド化して学校祭など

で販売しても、もっちはなき

に等しい。材料費や道具代に

増えてしまう。とはいえ、丁

寧に作った商品が売れば、

売り上げという形で成果が自

に見える喜びがある。

「障害があるがゆえに社会

生活を送る上で困難なことも

多いけれど、いいね、と言わ

れて伸びる子もいるはず」。

学校関係者はそう語る。「デ

イネイ」、いいね。そう喜ば

れることが、生徒の成長とい

う喜びを生む。